

倉野奴踊



古代天孫降臨（こだいてんそんこうりん）のニニギノ尊（みこと）が、川内川を下って倉野にさしかかったとき、淵の渦に巻き込まれ転覆してしまった。釣りをしていた倉野の村人が、とっさに川に飛び込み、此の方を救い上げたところ、ニニギノ尊（みこと）は助けてもらったお礼に、稲穂を村人に与え、「この種を大事に育てたら、村は豊かになるであろう」と言って又川を下っていった。そして倉野には見事な稲穂が稔るようになった。村人はニニギノ尊（みこと）が転覆された淵のうえに稲穂神社を建てた。奴踊りのバリン竿（さお）で悪霊（稲虫や稲の病気）を防いでいる様子を表している。

昭和38年（1963年）に、宮内町の「奴踊り」、寄田町の「棒踊り」とともに『新田神社の御田植祭りに伴う芸能(奴踊、棒踊)』という名称で鹿児島県の無形民俗文化財に指定された。倉野の「奴踊」は700年の歴史があるといわれており、倉野地区において伝統芸能継承に努めている。

長年入梅の日で開催されていたが、現在は入梅前の日曜日に行われる。地元倉野では前日に稲穂神社に奉納された後、旧倉野小学校校庭で住民に披露される。

【奉納・披露】

日程：毎年新田神社の奉納は入梅前の日曜日、地元倉野では前日に稲穂神社に奉納された後、旧倉野小学校校庭で住民に披露

場所：新田神社、稲穂神社、旧倉野小学校校庭